

スノーデント 2号 (G4689)

来歴及び経過

米国ファンク社で育成され、昭和54年より千葉研究農場及び各地現地試験、公的試験、農家試験を重ね、G4810Aより耐病性、耐倒伏性、低温発芽性で優れていることが確認され、昭和57年春より東北地方限定で新発売、昭和58年（来春）以降、府県全域で新系統として販売することに致しました。

品種特性

スノーデント 2号 (G4689), RM 125, 中生 交配様式 単交配

1. 早晩性 G4810Aと比較し、絹糸抽出期で4日、サイレージ収穫適期で5日早い。
2. 初期生育 低温発芽性に優れ、早播栽培に適し、初期生育も良好です。
3. 耐病性 ごま葉枯病に対して極めて高度な抵抗性を示し、黒穂病にも強い。ごま葉枯病の多発する西南暖地でその特性を発揮します。
4. 草姿 やや短程であるが、葉幅が極めて広く、葉長が長いことと相まって葉部割合の多い特徴的な草姿を示します。緑度保持に極めて優れ、収穫期まで葉病害に罹病せず、下葉まで緑葉を保ち健全な生育を続けます。
5. 耐倒伏性 G4810Aより強い耐倒伏性を示すが、個体当たり重量が大きいので実際の栽培にあたっては、栽植密度を6,500~7,000本/10aが最適です。
6. 収量性 茎葉多収型トウモロコシで、風乾物収量では茎葉部割合が55~60%でバランスのとれたサイレージが調製できます。
7. 適応地域 府県全域に適しますが、特にごま葉枯病、黒穂病の多発する地域での早播栽培に最適です。



耐病性、緑度保持の優れるスノーデント 2号 (G4689)

スノーデント 2号 (G4689) の耐病性試験

(56~57年)

項目	岩手	千葉	岡山	宮崎
ごま葉枯病	9	8	9	8
黒穂病	0	0	0	0

ごま、評点、9：極良、1：極不良。黒穂、%

スノーデント 2号 (G4689) の収量性 (56~57年)

項目	岩手	千葉	岡山	宮崎
風乾物収量	1,450	1,719	1,600	1,760
T D N収量	920	1,206	1,105	1,229

kg / 10a